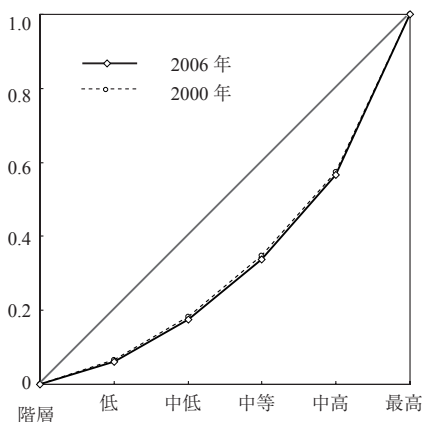


11 - E. 貧富格差指数（ジニ係数）の推移

貧富の格差を表す指標としてジニ係数が、グラフとしてローレンツ曲線がよく知られている。ローレンツ曲線は、横軸に所得者の累積比を、縦軸に所得の累積比を、それぞれ（0 から 1 まで）所得の低い順番に並べて、所得分布を表示したものである。すべての人の所得が同額で完全に平等な社会ならローレンツ曲線は 45 度の直線となるが、現実には格差が存在し、ローレンツ曲線は 45 度線の下方に膨らむ曲線になる。そして、この垂れ下がった曲線の膨らみが大きければ大きいほど、不平等度が增大していることを表す。右の都市家庭のローレンツ曲線において、1987 年と 2006 年とを比べると 2006 年は不平等度がより大きくなったことを意味する。一方、下の農村家庭のローレンツ曲線は 2000 年と 2006 年との違いが少なく不平等度はあまり進行していないことを意味する。

ジニ係数はローレンツ曲線によって図示される所得格差を数値化したものである。45 度線と下方に膨らむ曲線によって囲まれた部分の面積が大きければ大きいほど不平等度が大きい。そこで、この部分を、45 度線下の直角三角形の面積で割って 2 倍して指標化する。これがジニ係数であり、0 であれば完全に平等であることを表し、1 であれば一人の者がすべての所得を独占する完全不平等な状態を表す。一般にジニ係数が大きいほど格差が大きいことを意味する。

① 農村家庭所得のローレンツ曲線

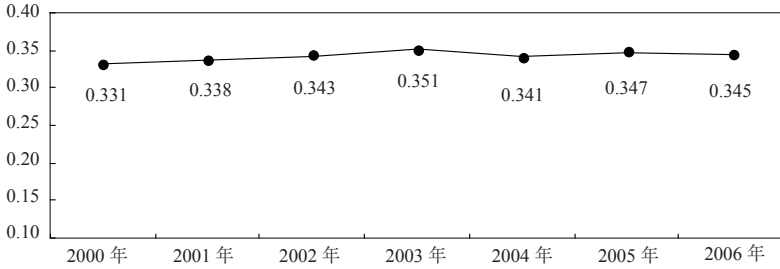


	2000年	2006年
低	0.066	0.061
中低	0.184	0.175
中等	0.348	0.336
中高	0.575	0.565
最高	1.000	1.000

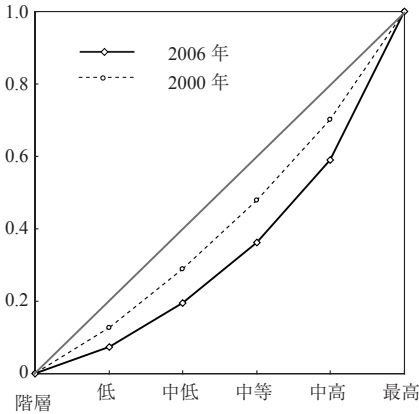
注：ジニ係数を算出するに当たり、『中国統計摘要』では、1999年データより5分位階級別でデータが掲載されているが、『中国統計年鑑』では、低収入と高収入は10分位となっている。

ここでの計算は、中国統計年鑑の10分位の低、高収入は、平均を取り、低収入と高収入とした。（資料）『中国統計年鑑』各年版、『中国統計摘要』各年版

②農村家庭所得のジニ係数の推移（2000～2006年）



③都市家庭所得のローレンツ曲線



	1987年	2006年
低	0.126	0.074
中低	0.289	0.196
中等	0.479	0.362
中高	0.702	0.589
最高	1.000	1.000

④都市家庭所得のジニ係数の推移（1987～2006年）

